



62

62 妙国寺のそてつ

樹高： 幹周り：
 樹齢： 指定年：大正13年12月9日
 所在地：堺市堺区材木町東4-1-4
 交通：阪堺電軌「妙国寺」下車、南東へ徒歩350m

妙国寺客殿の庭前にあります。妙国寺は別名ソテツ寺とも言われ、客殿前とは別の庭園にも多くのソテツの木が植えられています。江戸後期に書かれた『摂津名所図会』には、「大枝22本、小枝78本、総囲り25尺、高さ20余尺、枝葉6・

7間、一面青色ですいらんがことし」と、その大きさが記されています。数百年を生きてきたこのソテツの樹勢を回復するために平成20(2008)年から4か年にわたって保護増殖事業が行われた結果、今も元気に育ち続けています。

近年、ソテツの新芽を食い荒らす南方原産のクロマダラソテツジミが本樹周辺でも確認されました。この蝶の被害を防ぐための対策が今後も続けられています。

63 踞尾のそてつ

樹高： 幹周り：
 樹齢：600年 指定年：昭和45年2月20日
 所在地：堺市西区津久野
 交通：JR阪和線「津久野」駅下車、北東へ徒歩200m

個人宅の庭にある大きなソテツです。所有者は古代の渡来氏族・船氏の後裔といわれ、祖先がソテツを持ち帰って植えたという伝承があります。残念ながら親株は枯れましたが、太い枝九本が伸び、地面をおおう様は見事なものです。



ソテツの雄花



ソテツの雌花



63



64

64 妙楽寺のつつじ

樹 高：3.5m 幹周り：0.2~0.4m

樹 齢：200年 指定年：昭和58年5月2日

所在地：守口市大久保町4-25-8

交 通：京阪本線「古川橋」駅から、京阪バス大久保団地
行き「大久保中央公園」下車、東へ徒歩200m

境内裏の一角に堂々とした姿で、まさに鎮座しています。周囲40cmにもなる主幹から16本の幹が分かれ、大きく広がる枝張りに色とりどりの花を咲かせる様子は圧巻です。品種は最も大きな花をつけるオオムラサキツツジで、ヒラドツツジの近縁種です。4月末から5月上旬に花を咲かせます。



64

ソテツ

ソテツは裸子植物ソテツ科ソテツ属の常緑低木で、熱帯から亜熱帯に分布するソテツ類のうち日本に自生する唯一の種です。ソテツ類は古生代から中生代に繁栄した植物の生き残り種で、生きて化石と呼ばれます。日本では南西諸島や南九州に自生地があります。鉄分を補給すると元気になるという伝承から「蘇鉄」の字があてられ、幹に釘が打ち込まれているものをよく見かけます。幹は太く枝分かれはほとんどしません。葉は葉柄に細い線状葉がたくさん付く羽状で、幹の先端にまとまってつきます。成長は遅く、幹が伸びるにつれて葉を落とすため幹の表面は落葉痕で埋まっています。

雌雄異株で花は幹の先端に咲きます。花粉が雌花に入るとそこで精子が作られて受精し新芽を出します。

赤っぽい実は有毒ですがデンプン質に富むため、奄美群島や沖縄では長時間水にさらすなど毒抜きをして救荒食として利用されたこともありますし、現在も麴菌によって解毒した蘇鉄味噌をラードで炒めたアンダンスーというなめ味噌が作られています。また、幹からデンプンを採取する方法もありますが、常食しているグアムなどでは中毒により筋委縮性側索硬化症や痴呆症など難病の発生が報告されています。一方漢方では止血、解毒、腎機能回復などの薬効も認められています。



65

65 太子町榎井邸の椿^府

樹高：20m 幹周り：1.5m
 樹齢：600年～700年 指定年：昭和45年2月20日
 所在地：太子町
 交通：近鉄長野線「喜志」駅から、金剛バス「太子・葉室回り」行き「御陵前」下車、南東へ徒歩1.5km

個人所有の天然記念物です。淡いベージュ色の幹はなめらかで美しく、それに比して葉のつややかな緑が生命の力を感じさせます。真紅色の艶やかな花は、色のない冬にひととき目をひきます。



65

ツツジ

ツツジはツツジ科ツツジ属の半常緑低木の総称ですが、ドウダンツツジはドウダンツツジ属という別種です。日本ではツツジと区別されるサツキやシャクナゲは逆に同じツツジ属の植物です。たくさんの園芸品種があり、春には色とりどりのラッパ型の花を多くつけるため庭木や公園の植栽として親しまれています。それだけに、市町村の花になっている例も多く、府内では堺市、富田林市、柏原市、摂津市、交野市、大阪狭山市、岬町で市、町の花に指定されています。

漢字では躑躅という難しい字をあてますが、中国では「躊躇する」という意味があり、ツツジの中でも毒のある種を羊が食べることをためらうことからこういう字になったそうです。

低木ですが寿命は長く、もっとも古いものは千年を超えるともいわれています。材は緻密で根付などの細工ものによく利用されました。

ツバキ

ツバキはツバキ科ツバキ属の常緑樹で、照葉樹林の代表的構成種です。一般にヤブツバキと呼ばれるのが日本原産種で、南西諸島から青森県まで分布していますが、東日本では温暖な地域にしか見られません。変種にユキツバキや侘(わび)助(すけ)などがあり、茶花として好まれたことから栽培種のはたくさんの品種があります。

ツバキという和名は「厚葉木(あつばき)」あるいは「艶葉木(つやばき)」が転訛したものといわれます。また、椿という漢字は春に咲くことから日本で独自にあてられたもので、中国での本来の意味とは異なります。海柘榴という字もあてられますが、実の形が柘榴に似ているからで、正倉院御物には災いを払うという「海柘榴の卯杖」というものがあります。

春まだ寒いうちから赤色や白色などの大きめの花を咲かせます。この花は花卉がつながったままぼとりと散る様子が首が落ちるさまを連想させるということで、病人の見舞いとしては忌避されます。

材は硬く緻密で印材や将棋の駒、根付など細工物になります。炭も高級品とされ、きめが細かいことから特に漆器の研ぎ出しには無くてはならないものです。実から絞る油も高級品で、料理や髪油として利用されてきました。



66

66 春日神社のつばき府

樹 高：16m 幹周り：1.6m
 樹 齢：300年 指定年：昭和49年3月29日
 所在地：和泉市春木町992-1
 交 通：泉北高速「和泉中央」駅から、南海バス「春木川・若樫」方面行き「神社前」下車、西へ徒歩400m

平成 22 (2011) 年、このツバキの枝数本が枯れてしまいました。その枝を切り、病気が進行しないように治療されました。この木を守っていききたいと地元の人たちは一生懸命です。元気な枝には淡いピンクの花が咲き上方向かって伸びています。

トチノキ

トチノキはトチノキ科トチノキ属の落葉高木で、落葉広葉樹林の重要な構成種です。近縁種はアジア、ヨーロッパ、北米大陸に広く分布していて、パリの街路樹のマロニエは日本でもよく知られています。

湿潤で肥沃な土壌を好み、主として東日本から東北に分布しますが、西日本でも山地でも山地に入ると見かけることができます。巨木に育ちやすく、灰色の樹皮には亀裂が入ってごつごつしています。長い葉柄の先に縁に鋸歯を持つ卵形の葉が5～7枚掌状に付き、初夏に小さな白い花が密集した房状の花を咲かせます。

秋に実る球形の果実は分厚い皮に包まれており、中に栗の実をやや扁平にしたような種子がはいっています。

材は薄い黄金色が美しく、きれいな木目が出るためカウンターやテーブルなど高級家具に使われます。種子はあく抜きに手間がかかりますが縄文時代以来近代でも山村の重要な食料資源であり、救荒食料として里山でもトチノキは大切にされてきたそうです。現代でも粉をもち米と一緒についたとち餅を作っている地域があります。また、花からは上質の蜂蜜がとれるため、昔から養蜂家にとって重要な蜜源になっています。